

	21	壁面、窓、さん、戸棚上面、機器の上面、スイッチ等の清浄管理（ほこりが付いていない等）が維持されている	23	3	14	40	8	0	8	40	88
	22	床の汚れやしみの対策（手指消毒薬の飛散など）を実施している	19	3	16	38	7	0	7	43	88
	23	異常な臭気がないことの確認、および、臭気対策（発生源対策と換気対策）を実施している	27	2	9	38	7	0	7	43	88
	24	廊下に機器の放置等がなく、整備されており、機器を清潔に管理している	22	8	18	48	7	0	7	33	88
	25	階段・非常階段（特に壁下部、階段直角部等）等の清掃管理ができてい	14	2	19	35	14	1	15	38	88
	26	空調吹き出し口、吸い込み口等の定期清掃と清潔管理（ほこり、汚れがない）ができてい	23	4	17	44	8	0	8	36	88
	27	ストレッチャー、車椅子（車輪の付着物、ほこり）、点滴スタンド等の清拭と清潔管理ができてい	28	5	15	48	9	0	9	31	88
	28	濡潤区域の床壁、手洗いシンク、洗浄槽、浴室、シャワー室、洗髪場所等の清潔管理、汚染対策とカビ対策がおこなわれている	24	3	20	47	9	0	9	32	88
	29	便所の適正清掃（汚れ/着色/悪臭等への対応：悪臭は換気設備等）と必要に応じた環境消毒（便座等）がおこなわれている	23	3	15	41	6	0	6	41	88
	30	清掃用洗剤の希釈倍率と作成方法の文書化、希釈した清掃用洗剤の使用期間が適正である	24	4	19	47	7	0	7	34	88
E	31	清掃用具の適切な清浄化と臭いモップやほこりがとれていないブラシなどがなく、雑巾、布巾、スポンジ等の適正管理がおこなわれている	26	10	16	52	10	0	10	26	88
	32	滅菌物や医療材料の不良過剰在庫がなく、滅菌物、薬剤の適正管理（汚染包装破損防止等）がされ、後入れ先だし法の遵守がされている	14	1	8	23	6	0	6	59	88
	33	事象依存型無菌性維持event related sterility maintenance（ERSM：有効期限ではなく汚染を起す事象を重視する無菌管理）を採用している	32	8	18	58	8	0	8	22	88
	34	清潔物品清潔作業台と水回りとの隔離確保と汚染防止策が適正になされている	31	6	21	58	7	0	7	23	88
	35	床上30cm以下の棚に清潔物品の保管がない（汚染の危険性あり）	28	7	20	55	4	0	4	29	88
	36	適正な輸液混注作業遂行と混合後の清潔管理が実施されている	26	0	21	47	5	0	5	36	88
	37	経時的に分解する消毒薬（過酢酸、次亜塩素酸ナトリウム等）の使用期間を守っている	35	1	22	58	6	0	6	24	88
F	38	脂肪乳剤、プロポフォル、血液製剤などの分割使用禁止している	25	6	16	47	8	0	8	33	88
	39	棄容器的適正使用、針鋭利物の使用後適正処理、適切な分別がなされている	31	11	24	66	6	0	6	16	88
	40	安全対策装置付き器材の導入、教育、効果的安全使用を実行している	29	4	23	56	6	0	6	26	88
	41	血液・体液曝露後の対応マニュアル（フローチャート）の整備をおこなっている	30	2	26	58	7	0	7	23	88
	42	廃棄物処理方法、汚染拡散防止策、廃棄物の安全な移送、廃棄物保管場所の安全管理がなされ、管理責任者等が明示されている	27	1	22	50	8	0	8	30	88
	43	使用済みリネンの熱水洗濯（80℃、10分以上）、熱水洗濯が出来ない時の薬物処理（250ppm次亜塩素酸ナトリウム浸漬、など）が守られている	20	0	21	41	9	0	9	38	88
	44	洗濯後リネン類の適切な乾燥（方法、場所）と使用前清潔保管が適切である	28	2	22	52	10	0	10	26	88
	45	使用した鋼製小物の付着物固化防止処理、汚染拡大防止した安全搬送/保管等の対策を実施している	26	0	17	43	6	0	6	39	88
	46	中央滅菌供給部門における汚染拡散防止策、適正な洗浄・消毒・滅菌とその評価管理をしている	26	1	17	44	7	0	7	37	88
	47	適切な内視鏡洗浄、清浄化、清潔管理を実施している	29	1	20	50	5	0	5	33	88
	48	汚物室に清潔な医療用具（チューブ、ガーゼ、水囊など）が保管されていない	29	3	26	58	6	0	6	24	88
	49	厨房の食品衛生管理、適切な食器洗浄（熱水洗濯）と清潔管理が守られている	18	0	21	39	10	0	10	39	88

50	隔離室、手術室、陰陽圧切り替え室(切り替え方法等の周知徹底)の差圧確認(差圧計あるいはダンパーによる確認、または、タフト法による気流方向確認*)ができています	10	0	6	16	7	0	7	65	88
----	---	----	---	---	----	---	---	---	----	----

*ダンパー：鍋蓋状のものが壁の穴をふさぐようにぶら下っており、陽圧が一定以上かかると浮かぶ
タフト法：ティッシュ/脱脂綿等の吹流しによる細管隙（ドアが閉まる瞬間等）での気流方向確認

表 6. 2012 年度 ICS 講習会における IIL5 点評価となったラウンド回数別項目の集計結果 回答者数 121 名 有効回答件数 176

大分類	No	項目内容	ラウンド回数								5 点 評 価 数	5 点 未 満 施 設 数	計	
			1/6 カ 月	1/3 ~ 4 カ 月	1/2 カ 月	1/1 カ 月	1/2 月	1/2 週	1/週	1/2 週				未 回 数
A	1	臨床分離された微生物に関する個別患者情報を一覧表にして検討(一覧表は、細菌検査技師、または、臨床検査技師が最低週1回は定期的作成する)している	1	0	0	29	4	18	62	2	4	120	56	176
	2	必要に応じて、細菌検査室との情報交換情報収集(検査外注の場合は、電話やメールによって情報交換情報収集)をしている	1	0	6	44	4	24	67	2	7	155	21	176
	3	細菌の分離された部位と分離菌量を検討し、感染症、保菌、検体汚染(コンタミネーション)等の区別を判断した上で、現場ラウンドにより担当医師、担当看護師と診療録情報を検討して、感染症であるか否かを特定している	0	0	0	29	4	12	38	2	7	92	84	176
	4	感染症と特定された場合には、薬剤感受性を参照した適正治療法への介入、無効な抗菌薬投与/過剰な抗菌薬投与是正への介入、必要に応じた薬物血中濃度測定(therapeutic drug monitoring:TDM)等を行っている	1	0	0	39	4	13	51	2	5	115	61	176
	5	必要に応じ、検査結果を待たずに empiric therapy(原因菌未定時の経験的先行治療)を開始している	1	0	6	44	4	25	71	2	6	159	17	176
B	6	感染症が病院感染か否かの特定、および、病院感染の場合、感染経路の特定と対応を行っている	0	0	6	42	4	21	61	2	5	141	35	176
	7	ケア作業前後の手指衛生(手洗い/手指消毒)の適正手技、適正遵守、および、手荒れ対策を実施している	0	2	2	46	2	20	65	2	7	146	30	176
	8	個人用防護具(Personal Protective Equipment PPE:手袋、マスク、ガウン/エプロン、ゴーグル、フェイス・シールド等)の適切な着脱を実践している	1	1	6	41	2	18	62	2	7	140	36	176
	9	感染対策上の適切な病棟内の患者配置(個別隔離、集団隔離・コホート、逆アイソレーション等)を行っている	1	2	6	47	4	24	73	2	7	166	10	176
	10	下痢/嘔吐患者対策(接触感染対策、アイソレーション、下痢便および吐物の汚染拡散防止策)を実施している	1	1	5	49	4	22	69	2	6	159	17	176
	11	当該病棟のスタッフは、交差感染の危険性がある症例情報を把握している	1	2	5	46	4	24	67	2	7	158	18	176
C	12	汚染機器/器具/リネン等の適切な処理と搬送を実施している	1	2	6	44	4	19	71	2	3	152	24	176
	13	細菌汚染を受けやすい消毒薬(第四級アンモニウム塩、両性界面活性剤、低濃度クロルヘキシジン等)の適切な取り扱いをしている	0	2	6	40	4	20	68	1	4	145	31	176
	14	浸漬消毒を行う場合、適切な消毒薬の選択と器具/器材を確実に浸漬する	1	2	5	39	3	18	62	1	4	135	41	176
	15	手指衛生用品(液体石けん、手指消毒薬、ペーパー	1	2	6	45	2	16	62	1	4	139	37	176

	タオル等)の供給整備、ディスペンサーの適正設置/活用/管理 (故障、ノズルのつまり等)/使用量チェックをしている													
16	アレルギー対策としてのノンパウダー手袋、非ラテックス手袋、非アルコール系消毒薬の供給体制を整備している	1	2	6	38	4	15	63	2	7	138	38	176	
17	高水準消毒薬(グルタラル、過酢酸、フタラル)の曝露対策としてのPPE着用、換気対策を完備している(いずれも空気より分子量が重いので、下方からの排気を考慮する)	0	1	0	4	4	4	9	0	1	23	153	176	
D	適切な清掃方法と清掃順序(高清潔度区域から順次清掃、埃を立てない)、適切な用具の採用(病院用掃除機等)、用具の使用区域による使い分け(カラーコーディング等)を実施している	1	2	2	26	4	19	58	1	2	115	61	176	
	患者のベッド周辺(ベッド、床頭台、ベッド柵、ライト上、リモコン、ナースコール等)は、清潔維持と物品整理ができています	1	1	6	39	4	18	63	0	4	136	40	176	
	壁面、窓、さん、戸棚上面、機器の上面、スイッチ等の清浄管理(埃が付いていない等)が維持されている	1	0	3	33	4	9	43	0	3	96	80	176	
	空調吹き出し口、吸い込み口等の定期清掃と清潔管理(埃、汚れがない)をしている	0	1	4	29	0	15	58	2	2	111	65	176	
	床の汚れやしみの対策(手指消毒薬の飛散等)を実施している	1	2	6	39	4	16	63	2	7	140	36	176	
	異常な臭気がないことの確認、および、臭気対策(発生源対策と換気対策)を実施している	1	2	6	45	4	23	69	2	4	156	20	176	
	廊下に機器の放置等がなく、整備されており、使用していない機器はカバーを掛け、清潔に管理している	0	2	4	37	3	18	56	0	2	122	54	176	
	階段・非常階段(特に壁下部、階段直角部等)には埃がなく、清掃管理ができています	1	0	6	39	4	18	56	2	2	128	48	176	
	ストレッチャー、車椅子(車輪の付着物、埃)、点滴スタンド等の清潔管理ができています	1	1	3	38	4	15	55	2	4	123	53	176	
	湿潤区域の床壁(手洗いシンク、洗浄槽、浴室、シャワー室、洗髪場所等)の清潔管理、汚染対策とカビ対策をしている	1	2	6	47	4	15	61	1	5	142	34	176	
	便所の適正清掃(汚れ着色/悪臭等への対応)と必要に応じて環境消毒を実施している	1	1	6	46	4	20	71	2	6	157	19	176	
	清掃用洗剤の希釈倍率と作成方法の文書化、希釈した清掃用洗剤の使用期限は適正である	1	2	3	42	4	21	59	0	5	137	39	176	
清掃用具の適切な清浄化と臭いモップや埃がとれていないブラシ等がなく、雑巾、スポンジ等の管理は適正である	1	2	6	38	4	17	54	1	4	127	49	176		
E	滅菌物や医療材料の不良在庫/過剰在庫がなく、滅菌物、薬剤の適正管理(汚染/包装破損防止等)がされ、後入れ先出し法を遵守している	0	2	6	45	4	18	56	2	5	138	38	176	
	滅菌物に対して、事象依存型無菌性維持(event related sterility maintenance ERSM:有効期限ではなく汚染を起す事象を重視する無菌管理)を採用している	0	0	0	25	0	6	47	1	3	82	94	176	
	滅菌物や消毒された清潔物品は、床上30cm以下の棚に保管していない(汚染の危険性あり)	1	2	6	39	3	19	63	1	6	140	36	176	
	清潔物品/清潔作業台と水回りとの適正な隔離確保と汚染防止策を実施している	1	2	2	40	4	19	59	2	5	134	42	176	
	清潔な輸液混注作業の遂行と混合後の適正管理を実施している	1	1	6	46	4	21	68	1	7	155	21	176	

	36	脂肪乳剤、プロポフォル、血液製剤等の分割使用禁止を徹底している	1	2	4	41	4	24	63	2	4	145	31	176
	37	経時的に分解する消毒薬（過酢酸、次亜塩素酸ナトリウム等）の使用期間を守っている	1	2	6	44	4	25	66	1	7	156	20	176
F	38	スタッフステーション等の共有スペースでは、スタッフが手で触れるようなバインダー/ファイル類や器具を足元の棚に置いていない	1	2	2	42	4	16	51	2	2	122	54	176
	39	医療廃棄容器の適正使用、針鋭利物の使用後適正処理、および、適切な分別を実施している	1	0	6	46	0	15	62	1	6	137	39	176
	40	安全対策装置付き器材の導入、教育、安全使用を実行している	1	2	6	45	4	24	72	2	7	163	13	176
	41	血液・体液曝露後の対応マニュアル、および、フローチャートを整備している	1	2	3	50	4	23	64	2	6	155	21	176
	42	廃棄物処理方法に基づき、汚染拡散防止対策、廃棄物の安全な移送、廃棄物保管場所の安全管理がされ、管理責任者等を明示している	1	2	4	44	4	16	62	2	5	140	36	176
	43	使用済みリネンやタオル類等は熱水洗濯（80℃、10分以上）、熱水洗濯が出来ない時の薬物処理（250ppm次亜塩素酸ナトリウム浸漬、等）を守っている	1	1	2	32	4	13	55	1	4	113	63	176
	44	洗濯後のリネン、あるいはタオル類は清潔に保管している	1	2	6	48	4	21	74	2	7	165	11	176
	45	使用した鋼製小物の付着物固化防止処理、汚染拡大防止を考慮した安全搬送保管等の対策を実施している	1	0	6	45	4	16	68	1	7	148	28	176
	46	中央滅菌供給部門における汚染拡散防止策、適正な洗浄・消毒・滅菌方法の遵守とその評価管理を実施している	1	0	6	35	4	21	49	1	5	122	54	176
	47	内視鏡に対する適切な洗浄、および、高水準消毒、または、滅菌管理を実施している	1	0	6	37	4	23	46	1	5	123	53	176
	48	洗浄室・汚物室に清潔な医療用具（チューブ、ガーゼ、氷嚢等）を保管していない	1	2	5	48	4	24	65	0	6	155	21	176
	49	厨房の食品衛生管理、適切な食器洗浄（熱水洗濯）と清潔管理を遵守している	1	0	6	42	4	24	54	0	5	136	40	176
	50	隔離室、手術室、陰陽圧切り替え室（切り替え方法等の周知徹底）の差圧確認（差圧計あるいはダンパーによる確認、または、タフト法による気流方向確認*）をしている	1	0	0	7	4	9	15	0	0	36	140	176

*ダンパー：鍋蓋状のものか壁の穴をふさぐようにぶら下っており、陽圧が一定以上かかると浮かぶ
タフト法：ティッシュ/脱脂綿等の吹流しによる細管隙（ドアが閉まる瞬間等）での気流方向確認

表7. 2012年度ICS講習会受講生によるラウンド頻度の結果

ラウンドの頻度	対象病棟数
1回/6ヶ月	1
1回/3~4ヶ月	2
1回/2ヶ月	6
1回/1ヶ月	50
1~2回/1ヶ月	4
1回/2週間	25
1回/1週間	79
1~2回/1週間	2
未回答	7
合計	176

*2回/1ヶ月と回答のあったラウンドの頻度は1回/2週間とした。

表 8. 2011 年度及び 2012 年度の感染制御実践看護学講座受講生の自施設実習における IIL 評価各項目の 5 点法による集計結果

回答者数 36 名 有効回答件数 62

		項目内容	各評価点数における施設数							計
			5	4	3	2	1	0	N	
A	1	臨床分離された微生物に関する個別患者情報を一覧表にして検討（一覧表は、細菌検査技師、または、臨床検査技師が最低週 1 回は定期的に作成する）している	43	2	1	3	1	10	2	62
	2	必要に応じて、細菌検査室との情報交換情報収集（検査外注の場合は、電話やメールによって情報交換情報収集）をしている	48	6	1	1	1	0	5	62
	3	細菌の分離された部位と分離菌量を検討し、感染症、保菌、検体汚染（コンタミネーション）等の区別を判断した上で、現場ラウンドにより担当医師、担当看護師と診療録情報を検討して、感染症であるか否かを特定している	30	0	1	3	6	20	2	62
	4	感染症と特定された場合には、薬剤感受性を参照した適正治療法への介入、無効な抗菌薬投与/過剰な抗菌薬投与是正への介入、必要に応じた薬物血中濃度測定（therapeutic drug monitoring :TDM）等を行っている	37	2	2	1	1	17	2	62
	5	必要に応じて、検査結果を待たずに empiric therapy（原因菌未定時の経験的先行治療）を開始している	49	0	0	0	1	9	3	62
B	6	感染症が病院感染か否かの特定、および、病院感染の場合、感染経路の特定と対応を行っている	44	1	1	3	1	11	1	62
	7	ケア/作業前後の手指衛生（手洗い/手指消毒）の適正手技、適正遵守、および、手荒れ対策を実施している	34	1	1	0	7	18	1	62
	8	個人用防護具(Personal Protective Equipment PPE：手袋、マスク、ガウン/エプロン、ゴーグル、フェイス・シールド等)の適切な着脱を実践している	26	3	2	3	5	21	2	62
	9	感染対策上の適切な病棟内の患者配置（個別隔離、集団隔離・コホート、逆アイソレーション等）を行っている	54	1	1	1	3	1	1	62
	10	下痢/嘔吐患者対策（接触感染対策、アイソレーション、下痢便および吐物の汚染拡散防止策）を実施している	45	3	0	2	1	10	1	62
	11	当該病棟のスタッフは、交差感染の危険性がある症例情報を把握している	50	5	2	2	0	2	1	62
C	12	汚染機器/器具/リネン等の適切な処理と搬送を実施している	47	4	3	1	1	5	1	62
	13	細菌汚染を受けやすい消毒薬（第四級アンモニウム塩、両性界面活性剤、低濃度クロルヘキシジン等）の適切な取り扱いをしている	45	2	4	1	1	7	2	62
	14	浸漬消毒を行う場合、適切な消毒薬の選択と器具/器材を確実に浸漬する	46	0	3	1	1	10	1	62
	15	手指衛生用品（液体石けん、手指消毒薬、ペーパータオル等）の供給整備、ディスペンサーの適正設置/活用管理（故障、ノズルのつまり等）/使用量チェックをしている	32	2	6	0	1	12	9	62
	16	アレルギー対策としてのノンパウダー手袋、非ラテックス手袋、非アルコール系消毒薬の供給体制を整備している	48	1	6	1	0	4	2	62
	17	高水準消毒薬（グルタラル、過酢酸、フタラル）の曝露対策としての PPE 着用、換気対策を完備している（いずれも空気より分子量が重いので、下方からの排気を考慮する）	11	2	0	2	0	5	42	62
	18	適切な清掃方法と清掃順序（高清潔度区域から順次清掃、埃を立てない）、適切な用具の採用（病院用掃除機等）、用具の使用区域による使い分け（カラーコーディング等）を実施している	43	3	2	0	1	11	2	62
D	19	患者のベッド周辺（ベッド、床頭台、ベッド柵、ライト上、リモコン、ナースコール等）は、清潔維持と物品整理ができています	37	3	0	0	2	7	13	62
	20	壁面、窓、さん、戸棚上面、機器の上面、スイッチ等の清浄管理（埃が付いていない等）が維持されている	46	1	3	4	4	4	0	62
	21	空調吹き出し口、吸い込み口等の定期清掃と清潔管理（埃、汚れがない）をしている	37	4	4	3	2	12	0	62
	22	床の汚れやしみの対策（手指消毒薬の飛散等）を実施している	44	3	2	3	1	9	0	62
	23	異常な臭気がないことの確認、および、臭気対策（発生源対策と換気対策）を実施している	48	1	2	0	3	5	3	62
	24	廊下に機器の放置等がなく、整備されており、使用していない機器はカバーを掛け、清潔に管理している	48	1	0	2	1	9	1	62

	25	階段・非常階段（特に壁下部、階段直角部等）には埃がなく、清掃管理ができています	48	2	0	1	1	6	4	62
	26	ストレッチャー、車椅子（車輪の付着物、埃）、点滴スタンド等の清潔管理ができています	42	2	4	1	3	10	0	62
	27	湿潤区域の床壁（手洗いシンク、洗浄槽、浴室、シャワー室、洗髪場所等）の清潔管理、汚染対策とカビ対策をしています	35	6	10	4	2	5	0	62
	28	便所の適正清掃（汚れ/着色/悪臭等への対応）と必要に応じて環境消毒を実施しています	38	6	1	1	1	15	0	62
	29	清掃用洗剤の希釈倍率と作成方法の文書化、希釈した清掃用洗剤の使用期限は適正である	45	2	2	1	1	6	5	62
	30	清掃用具の適切な洗浄化と臭いモップや埃がとれていないブラシ等がなく、雑巾、スポンジ等の管理は適正である	42	0	1	1	2	15	1	62
E	31	滅菌物や医療材料の不良在庫過剰在庫がなく、滅菌物、薬剤の適正管理（汚染/包装破損防止等）がされ、後入れ先出し法を遵守している	45	4	1	0	1	11	0	62
	32	滅菌物に対して、事象依存型無菌性維持（event related sterility maintenance ERSM：有効期限ではなく汚染を起す事象を重視する無菌管理）を採用している	37	2	4	1	1	16	1	62
	33	滅菌物や消毒された清潔物品は、床上30cm以下の棚に保管していない（汚染の危険性あり）	18	5	0	3	0	21	15	62
	34	清潔物品/清潔作業台と水回りとの適正な隔離確保と汚染防止策を実施している	49	0	1	1	3	8	0	62
	35	清潔な輸液混注作業の遂行と混合後の適正管理を実施している	45	2	4	0	3	8	0	62
	36	脂肪乳剤、プロポフォール、血液製剤等の分割使用禁止を徹底している	40	4	2	0	1	15	0	62
	37	経時的に分解する消毒薬（過酢酸、次亜塩素酸ナトリウム等）の使用期間を守っている	49	1	1	0	0	11	0	62
F	38	スタッフステーション等の共有スペースでは、スタッフが手で触れるようなバインダー/ファイル類や器具を足元の棚に置いていない	57	0	1	1	0	1	2	62
	39	医療廃棄容器的の適正使用、針鋭利物の使用後適正処理、および、適切な分別を実施している	42	9	0	0	2	7	2	62
	40	安全対策装置付き器材の導入、教育、安全使用を実行している	46	3	2	0	3	4	4	62
	41	血液・体液曝露後の対応マニュアル、および、フローチャートを整備している	53	2	0	0	2	4	1	62
	42	廃棄物処理方法に基づき、汚染拡散防止対策、廃棄物の安全な移送、廃棄物保管場所の安全管理がされ、管理責任者等を明示している	48	4	2	3	2	2	1	62
	43	使用済みリネンやタオル類等は熱水洗濯（80℃、10分以上）、熱水洗濯が出来ない時の薬物処理（250ppm次亜塩素酸ナトリウム浸漬、等）を守っている	42	1	2	1	0	9	7	62
	44	洗濯後のリネン、あるいはタオル類は清潔に保管している	53	1	2	1	0	1	4	62
	45	使用した鋼製小物の付着物固化防止処理、汚染拡大防止を考慮した安全搬送保管等の対策を実施している	49	0	2	1	0	8	2	62
	46	中央滅菌供給部門における汚染拡散防止策、適正な洗浄・消毒・滅菌方法の遵守とその評価管理を実施している	23	0	1	0	1	7	30	62
	47	内視鏡に対する適切な洗浄、および、高水準消毒、または、滅菌管理を実施している	17	1	1	0	0	5	38	62
	48	洗浄室・汚物室に清潔な医療用具（チューブ、ガーゼ、氷嚢等）を保管していない	55	0	1	0	1	1	4	62
	49	厨房の食品衛生管理、適切な食器洗浄（熱水洗濯）と清潔管理を遵守している	24	0	2	0	0	1	35	62
	50	隔離室、手術室、陰陽圧切り替え室（切り替え方法等の周知徹底）の差圧確認（差圧計あるいはダンパーによる確認、または、タフト法による気流方向確認*）をしている	10	3	2	1	0	1	45	62

*ダンパー：鍋蓋状のものが壁の穴をふさぐようにぶら下っており、陽圧が一定以上かかると浮かぶ

タフト法：ティッシュ/脱脂綿等の吹流しによる細管隙（ドアが閉まる瞬間等）での気流方向確認

*N：該当事項なし（施設内の体制としておこなっていない、おこなえない事項）

II 感染制御策遵守のための e-learning

平成 23 年度の研究成果物として、下記 3 つの e-learning を厚生労働省へ提出した。平成 24 年度は、予算の関係で残念ながらやむなく作成を断念した。

1. 感染対策と医療経済
木村 哲 担当
2. 医療関連感染対策に必要な基礎知識 — 多くの医療従事者へ —
森屋 恭爾 担当
3. 器材の消毒の実際
尾家 重治 担当

Ⅲ 感染制御策の質向上を目指す教育的 DVD

平成 23 年度の研究として、下記 2 つの DVD を作成し、東京医療保健大学大学院ホームページに掲載し公開している。平成 24 年度は、予算の関係で残念ながらやむなく制作を断念した。

1. 病院の建築設備的感染制御策とその運用

小林 寛伊 担当

2. 感染制御の過去・現在・未来

第 27 回日本環境感染学会 基調講演（2012 年 2 月 3 日）より収録編集

小林 寛伊 担当

IV アウトブレイク発生時の特定方法ならびに原因追求に関する指針案の改善改定

アウトブレイク発生時の特定方法ならびに一次的対応に関する指針案 - III

— 感染症治療にはここでは言及せず —

(2012 年度案 2013 年 4 月)

小林寛伊 大久保 憲 小栗豊子 尾家重治 奥住捷子 菅原えりさ 吉田理香 竹内千恵 黒須一見

病院感染（医療関連感染）アウトブレイクは、早期にそれを特定し、対応していくことが鍵であり、これまでアウトブレイク発生時の特定方法と対応に関して提言^{1, 2)}を重ねてきたが、今回更に検討を重ねて改訂を試みたので報告する。

1. 環境長期生存菌による病院感染（医療関連感染）アウトブレイク

最近、国内外ともに、環境に長期生存している単一菌種によるアウトブレイク長期継続の報告が後を絶たず、早期特定の重要性がうかがえる。Klamer ら³⁾は、表 1 のようなシステマティック・レビューをおこなって、注意を喚起しており、日常的表面消毒をおこなわないと、継続的感染の原因と成ると指摘している。

表 1. 微生物の環境における生存期間 (Review)

菌種	環境生存期間	引用文献数
<i>Acinetobacter</i> spp.	3 日-5 ヶ月	6
<i>Bordetella pertussis</i>	3-5 日	2
<i>Campylobacter jejuni</i>	-6 日	1
<i>Clostridium difficile</i> (芽胞)	-5 ヶ月	2
<i>Chlamydomphila pneumoniae</i> , <i>C. trachomatis</i>	-30 時間	2
<i>Chlamydomphila psittaci</i>	15 日	1
<i>Corynebacterium diphtheria</i>	7 日-6 ヶ月	2
<i>Corynebacterium pseudotuberculosis</i>	1-8 日	1
<i>Escherichia coli</i>	1.5 時間-16 カ月	10
<i>Enterococcus</i> spp. 含 VRE, VSE	5 日-4 ヶ月	5
<i>Haemophilus influenza</i>	12 日	1
<i>Helicobacter pylori</i>	-90 ヶ月	1
<i>Klebsiella</i> spp.	2 時間-30 ヶ月以上	5
<i>Listeria</i> spp.	1 日-数ヶ月	3
<i>Mycobacterium bovis</i>	2 ヶ月以上	2
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	1 日-4 ヶ月	2
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>	1-3 日	3
<i>Proteus vulgaris</i>	1-2 日	1
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	6 時間-16 カ月 乾燥床面 5 週	7
<i>Salmonella typhi</i>	6 時間-4 週	1
<i>Salmonella typhimurium</i>	10 日-4.2 年	3
<i>Salmonella</i> spp.	1 日	1
<i>Serratia marcescens</i>	3 日-2 ヶ月 乾燥床面 5 週	2
<i>Shigella</i> spp.	2 日-5 ヶ月	3
<i>Staphylococcus aureus</i> , 含 MRSA*	7 日-7 ヶ月	3
<i>Streptococcus pneumonia</i>	1-20 日	1
<i>Streptococcus pyogenes</i>	3 日-6.5 ヶ月	1
<i>Vibrio cholera</i>	1-7 日	2

Kramer A. et al. *BMC Infect Dis* 2006; 6: 130. doi:10.1186/1471-2334-6-130 を翻訳一部改編

MRSA* : methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*

註 *Salmonella typhi* : *Salmonella enterica* subsp. *enterica* serovar *Typhi*

Salmonella typhimurium : *Salmonella enterica* subsp. *enterica* serovar *Typhimurium*

また、Otter らは⁴⁾、汚染表面は、以下のような微生物の交差感染が重要な役割を果たしているというエビデンスが積み重ねられて来たと強調している。

- ① *Clostridium difficile*
- ② Vancomycin-resistant enterococci
- ③ *Staphylococcus aureus* (含 MRSA)
- ④ *Acinetobacter baumannii*
- ⑤ *Pseudomonas aeruginosa*,
- ⑥ *Norovirus*

更にこれらに、市井型 MRSA community-acquired CA-MRSA を追加したいが、Otter らは、改善された環境浄化はアウトブレイク予防に寄与していると結論している。

このような汚染環境を介して生ずる危険性のある、しかも、長期間続く単一菌株によるアウトブレイクは、患者環境の浄化と共に、複数の同一菌種による病院感染が同一病棟あるいは関連病棟で発生した際に速やかに単一菌株による交差感染が否かを特定して、アウトブレイクを未然に防止することが、感染制御策としての日常業務上、重要な課題の1つである。

アウトブレイク防止対策としては、同時に、医療従事者同士、および、医療従事者と患者との間、等のヒトからヒトへの直接的あるいは間接的交差汚染を防止する対策も重要である。

このような観点から、アウトブレイク発生時の特定方法ならびに原因追求に関する指針案Ⅱに言及したい。

2. アウトブレイク早期特定と対策

病棟ラウンド ward liaison により、複数の、あるいは、通常より多い、同一菌種による新規感染症例の存在に気付いた際は、病院感染アウトブレイクを疑う。アウトブレイク頻度の高い菌種に関しては、以下の判定基準に従って原因菌株を特定する。細菌検査情報においてアウトブレイクを示唆された場合も同様である。

なお、1 例からの菌分離であっても、菌株によっては、その後ろに複数の保菌者が隠れており、アウトブレイクの子備軍となっている可能性もあり、下記 4. の一次的対応 2) に示したように、適切な調査をおこなって、アウトブレイク防止に努めることが望ましい場合もあることを銘記して置きたい。

また、感染制御担当医師、感染制御担当看護師、微生物検査技師などのいない中小病院においては、地域支援ネットワーク（日本環境感染学会教育認定施設中心のネットワーク、あるいは、2012 年 4 月診療報酬改正に基づくネットワーク）を有効に活用して、速やかな特定に結び付けることが肝要である。

1. Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA)

1-1. Hospital acquired (Healthcare-associated) MRSA (HA-MRSA)

- 1) 複数 MRSA 感染症例の存在
- 2) 抗菌薬感受性パターンの類似性

：ここで MRSA アウトブレイクを疑う

一次的対応

- 3) 感染経路の迅速な特定（医療従事者/患者スクリーニング、環境スクリーニング、その他）による制圧
- 4) 同一の診療グループが関与していないかどうかの検討と介入
- 5) MRSA 拡散につながる感染症例は、可能な限り個室アイソレーション isolation、もしくは、コホート（集団）アイソレーション cohort isolation（註：保菌例のアイソレーションも望ましいが、日本の現状ではその率からいって現実的には困難な場合が多い。日本における現状での全体的感染率増加も見られていない）
- 6) 専門機関に依頼しての Pulsed field gel electrophoresis (PFGE)、または、Phage Open Reading Frame Typing (POT)

法)による確証 (可能な限り)

1-2. Community-acquired (-associated) MRSA (CA-MRSA)

- 1) 通常より多い複数の新規皮膚/軟部組織感染症例の存在
- 2) それらの内に複数 MRSA 感染症の存在
- 3) HA-MRSA に比して比較的感受性良好な抗菌薬感受性パターンの類似性

：ここで CA-MRSA アウトブレイクを疑う

一次的対応

- 4) 感染経路の迅速な特定 (医療従事者/患者スクリーニング、環境スクリーニング、その他) による制圧
- 5) 専門機関に依頼しての遺伝子解析による確証 (可能な限り)

2. *Acinetobacter baumannii*

- 1) 複数の *A. baumannii* 分離症例 (保菌例を含む)
- 2) 抗菌薬感受性パターン (特に多剤耐性株に留意) の類似性

：ここで *A. baumannii* 感染症アウトブレイク/交差汚染多発を疑う

一次的対応

- 3) 感染経路の迅速な特定 (医療従事者/患者スクリーニング、環境/機器—特に人工呼吸器関連機器等スクリーニング、血管内ルート の点検、その他) による制圧
- 4) 多剤耐性 *A. baumannii* の場合は、感染症例、保菌例ともに個室アイソレーション、もしくは、コホート・アイソレーション
- 5) 専門機関に依頼しての PFGE による確証 (可能な限り)

3. *Clostridium difficile* (CD)

- 1) 原因不明の新規複数下痢症例の存在
- 2) 下痢症例の検体採取による CD トキシン (A/B) 検査陽性

：ここで *C. difficile* 関連感染症アウトブレイクを疑う

一次的対応

- 3) 特に高齢者/基礎疾患の重篤な症例/抗菌薬多用症例などの下痢症例は早期特定と個別管理 (個室アイソレーション/接触予防策など) による制圧
- 4) 感染経路の迅速な特定 (特に環境汚染に注意) と清浄化 (環境消毒を含む) による制圧
- 5) 専門機関に依頼しての polymerase chain reaction (PCR) ribotyping などによる確証 (可能な限り)

留意点: CD による重症腸炎患者が発生した場合は、重症化しやすい北米流行型の NAP1/BI/027 株も想定した検査と対策が必要 (注: 日本での分離はこれまではごく僅か)

4. Vancomycin-resistant enterococci (VRE)

- 1) 複数の VRE 分離症例 (保菌例を含む)

：ここで VRE 感染症アウトブレイク/交差汚染多発を疑う

一次的対応

- 2) 1 例のみからの分離であっても日本の現状に鑑みて周辺への波及を疑って調査する
- 3) 感染症例、保菌例の個室アイソレーション、もしくは、コホート・アイソレーション

- 4) 特に、おむつや排便介助の必要な VRE 陽性症例における接触予防策の徹底
- 5) 感染経路の迅速な特定（特に環境汚染に注意）と清浄化による制圧
- 6) グリコペプチド系薬その他の抗菌薬の長期投与症例/基礎疾患の重篤な症例/長期入院症例に留意して制圧
- 7) 専門機関に依頼しての polymerase chain reaction (PCR)、あるいは、PFGE による確証（可能な限り）
- 8) 感染症例の場合は、7 日以内に最寄りの保健所に届ける（全数把握の 5 類感染症）。

5. *Pseudomonas aeruginosa*

- 1) 複数の *P. aeruginosa* 感染症例の存在（特に多剤耐性緑膿菌 multidrug resistant *P. aeruginosa* (MDRP) に留意する）
- 2) 抗菌薬感受性パターンの類似性

：ここで *P. aeruginosa* 感染症アウトブレイクを疑う

一次的対応

- 3) 感染経路の迅速な特定（人工呼吸器、加湿器などの器具表面汚染/洗浄室など湿潤環境汚染その他）と清浄化による制圧
- 4) MDRP 感染症例、保菌例の個室アイソレーションもしくはコホート・アイソレーション
- 5) 蓄尿関連器材、設備の点検
- 6) 専門機関に依頼しての PFGE による確証（可能な限り）
- 7) 湿潤な原因菌株貯留部位 reservoir（流しのドレインなど）は除菌、菌陰性化が不可能なのが通常であり、このような菌貯留部位からの交差汚染を断ち切る設備的対策、および、手指衛生などの交差汚染対策が必須となる。

6. *Serratia marcescens*, *S. liquefaciens* など

- 1) 複数の *Serratia* spp. 感染症例の存在
- 2) 抗菌薬感受性パターンの類似性

：ここで *Serratia* spp. 感染症アウトブレイクを疑う

一次的対応

- 3) 感染経路の迅速な特定（点滴関連の薬剤、器材、注射液などの作り置き、ルート管理に関する点検、吸入器、人工呼吸器など水管理に関する点検、環境スクリーニング、その他）と清浄化による制圧
- 4) カルバペネムを含む多剤に耐性を示す *Serratia* spp. の場合、感染症例、保菌例の個室アイソレーション、もしくは、コホート・アイソレーション
- 5) 専門機関に依頼しての PFGE による確証（可能な限り）

7. *Norovirus*

- 1) 複数の原因不明の下痢あるいは嘔吐症例の存在
- 2) *Norovirus* が原因と考えられる症例の吐物、排泄物との関連性の有無のチェック

：ここで *Norovirus* 腸管感染症アウトブレイクを疑う

一次的対応

- 3) 感染経路の迅速な特定（患者吐物、下痢便との接触もしくは粉塵を介した感染の可能性、医療従事者・家族・面会者の症状確認、食材、調理場などの点検、その他）と特定された感染経路の遮断による制圧
- 4) 感染症例の個室アイソレーション、もしくは、コホート・アイソレーション
- 5) 吐物、下痢便の適切な処理（空中飛散防止が重要）

- 6) 迅速検査により原因が *Norovirus* かどうかの確定（可能な限り）

8. *Mycobacterium tuberculosis*

- 1) 一名以上の活動性肺結核患者、喉頭結核患者の存在（菌排出患者が診断されずに隔離されていなかった場合）
-Index case の存在
- 2) 複数の接触者検診において、全血インターフェロン γ 応答測定法 whole-blood interferon gamma release assay (IGRA) (QuantiFERON[®]-TB2G クオンティフェロン[®]-TB2G(QFT)) 陽性、あるいは、持続する咳嗽、不明熱、通常の抗菌薬に反応しない呼吸器疾患、遷延化する肺疾患、などの症例において、塗抹検査、PCR 検査（非定型抗酸菌症との鑑別：可能な限り）、胸部レントゲン検査など実施の結果、結核感染症を疑う症例が複数確認された場合

：ここで肺結核のアウトブレイクの可能性を疑う

一次的対応

- 3) 感染経路の迅速な特定、患者の個室アイソレーション（空気感染対策のための陰圧室へアイソレーション。陰圧室のない場合は、排気ファン作動、あるいは、個別エア・コンディショナー（エアコン）の場合は窓開放。複数室一括再循環空調方式の場合は、交差汚染防止のため、速やかに専門医の指示を得る。）
- 4) 保健所への届け出と対応の協議（接触者検診の実施の必要性について検討）
- 5) 抗結核薬の投与（註：専門医の指示のもとで早期の二次感染防止策として）と、速やかな結核指定医療機関等への転院措置
- 6) 結核菌に暴露された可能性のある患者/職員の接触者検診
- 7) 排菌患者に接触する医療従事者の N95 マスク着用

9. *Influenza virus*

- 1) 医療従事者を含む複数のインフルエンザ様症状（咳嗽、発熱の持続）の確認
- 2) 迅速診断キットにて *Influenza A/B virus* の診断

：ここでインフルエンザのアウトブレイクを疑う

一次的対応

- 3) 疑わしい外来患者へのサージカル・マスク着用と隔離診察
- 4) 入院患者の個室アイソレーション、もしくは、コホート・アイソレーション
- 5) 患者移動時には患者自身にサージカル・マスク着用
- 6) 抗インフルエンザ薬の投与（註：二次感染拡大防止のため）
- 7) 感染拡大防止策の総合的遵守
- 8) 必要に応じて polymerase chain reaction (PCR) 検査の実施
- 9) 医療従事者の N95 マスク着用
- 10) 手指衛生の励行

10. *Bacillus spp.*

- 1) 発熱症例の集団的あるいは散発的な持続的発生（特に気温が高くなる時期）
- 2) 複数の患者の血液からの *Bacillus cereus* などの *Bacillus spp.* の検出

：ここで *Bacillus spp.* のアウトブレイクを疑う

一次的対応

- 3) 感染経路の迅速な特定（アルコール綿容器、カテーテル、点滴／輸液製剤の培養検査）
- 4) オシボリ、タオル等の使用後の保管状況および洗浄時の衛生管理状況の点検と培養検査
- 5) カテーテル、輸液ライン等の衛生管理状況の確認と処置時の手指衛生の徹底
- 6) 専門機関に依頼しての PFGE による確証（可能な限り）

11. 以上のいずれの条件にも合致せずに、新規感染症が通常より増加している場合

- 1) 分離された細菌より他のアウトブレイクを疑って検討する
- 2) 速やかに専門医に相談する

なお、表 2 表 3 に示すように、臨床分離菌情報を整理して、これらをもとに関係者で検討をおこなうことが望ましい、そして、表の見方については、以下の 3. 解説を参照されたし。

表 2. 臨床分離菌情報：緑膿菌のみ抽出データ

受付年月日	患者 ID	材料	入外区分	診療科	性別	年齢(年)	年齢(月、日)	菌(一般細菌)	菌量	PIPC	CAZ	IPM	GM	AMK	CPFX
2012/7/2	7336381	カテーテル尿	外来	泌尿器科	男	60		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	I	I	R
2012/7/3	332445	血液	入院	一般外科	男	78		<i>Paeruginosa</i>	+	S	S	S	S	S	S
2012/7/3	7404093	血液	入院	脳神経内科	男	71		<i>Paeruginosa</i>	+	S	S	S	S	S	S
2012/7/3	7404093	中間尿	入院	脳神経内科	男	71		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/3	625761	カテーテル尿	入院	血液内科	男	83		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	R	R
2012/7/3	450227	喀痰	入院	整形外科	男	75		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	I	S	S
2012/7/4	27570	鼻咽腔	入院	一般外科	女	86		<i>Paeruginosa</i>	1+	S	S	S	S	S	S
2012/7/4	48747	糞便	入院	救急救命	女	74		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/4	4125682	創部	入院	救急救命	女	42		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	S	R
2012/7/4	5449553	喀痰	外来	救急救命	女	77		<i>Paeruginosa</i>	1+	S	S	S	S	S	S
2012/7/4	7376057	喀痰	入院	血液内科	女	66		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	R	R
2012/7/4	7375930	カテーテル尿	入院	脳外科	男	58		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	I	S	S
2012/7/4	7398620	カテーテル尿	入院	脳外科	男	36		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/4	7073801	カテーテル尿	外来	泌尿器科	男	25		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/5	7304510	咽頭粘液	入院	血液内科	男	63		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	R	R	S	S	I
2012/7/5	7376057	血液	入院	血液内科	女	66		<i>Paeruginosa</i>	+	R	R	R	R	R	R
2012/7/5	3087131	動脈血	入院	血液内科	女	42		<i>Paeruginosa</i>	+	R	R	I	R	R	I
2012/7/5	3087131	喀痰	入院	血液内科	女	42		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	I	R	R	R
2012/7/5	7376057	喀痰	入院	血液内科	女	66		<i>Paeruginosa</i>	1+	R	R	R	R	R	R
2012/7/5	4102487	中間尿	入院	精神科	男	62		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/6	7336705	創部	入院	救急救命	男	42		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	I	S	S
2012/7/6	7336705	I V Hカテ	入院	血液内科	男	42		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	R	R
2012/7/6	3087131	胸水	入院	血液内科	女	42		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	R	I
2012/7/6	3087131	血液	入院	血液内科	女	42		<i>Paeruginosa</i>	+	R	R	R	R	R	R
2012/7/6	7336705	血液	入院	血液内科	男	42		<i>Paeruginosa</i>	+	R	R	R	R	R	R
2012/7/6	7409036	糞便	入院	脳外科	女	55		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	S	R
2012/7/6	7374283	パウチ尿	外来	小児科	男	0	9M	<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	I	S	S
2012/7/6	2168723	喀痰	入院	脳外科	女	76		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	I	R	S	S	S
2012/7/7	7403364	膣分泌液	入院	救急救命	女	29		<i>Paeruginosa</i>	1+	S	S	S	S	S	S
2012/7/7	7403763	中間尿	外来	泌尿器科	男	33		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	S	R
2012/7/8	6627854	開放膿	入院	救急救命	男	70		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	S	R
2012/7/8	5678123	喀痰	入院	救急救命	女	93		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	I	I	S	S	S
2012/7/8	6984797	喀痰	入院	救急救命	男	87		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/9	199419	膿(ガーゼ)	入院	一般外科	男	77		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/9	5328331	ドレーン廃液	入院	消化器外科	女	69		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/9	7395159	カテーテル尿	入院	脳外科	女	76		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/10	332445	中間尿	入院	一般外科	男	78		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/10	1238902	開放膿	入院	救急救命	男	70		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S

受付年月日	患者ID	材料	入外区分	診療科	性別	年齢(年)	年齢(月、日)	菌(一般細菌)	菌量	PIPC	CAZ	IPM	GM	AMK	CPFX
2012/7/10	2357890	開放膿	入院	救急救命	男	70		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	S	R
2012/7/10	6627855	開放膿	入院	救急救命	男	70		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/10	357987	気管内チューブ	入院	救急救命	男	70		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/10	7404093	カテーテル尿	入院	脳神経内科	男	71		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/10	7243057	喀痰	入院	消化内科	男	68		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	S	S	S
2012/7/10	7260229	創部	入院	皮膚科	男	32		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/10	7260229	創部	入院	皮膚科	男	32		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/11	625761	喀痰	入院	血液内科	男	84		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	R	R
2012/7/11	1353969	咽頭粘液	入院	血液内科	男	71		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	R	R
2012/7/11	6142800	開放膿	入院	泌尿器科	男	81		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	R	R	S	S	S
2012/7/12	7343183	気管内チューブ	入院	救急救命	男	57		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/12	50610	カテーテル尿	入院	脳神経内科	男	81		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	S	S	S
2012/7/12	50610	喀痰	入院	脳神経内科	男	81		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/12	7304510	咽頭粘液	入院	血液内科	男	63		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	R	R
2012/7/13	7225954	気管内チューブ	入院	救急救命	男	79		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	S	S	S
2012/7/13	8904531	気管内チューブ	入院	救急救命	男	57		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/13	7384289	喀痰	入院	救急救命	男	75		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/13	8753212	バルーン尿	入院	血液内科	男	38		<i>Paeruginosa</i>	3+	R	R	R	R	R	R
2012/7/13	7386605	吸引痰	入院	血液内科	男	38		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	R
2012/7/13	7401329	喀痰	入院	消化内科	女	82		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/14	7865432	ウインスロー	入院	救急救命	男	60		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	I	I	S	S	S
2012/7/14	7343183	気管内チューブ	入院	救急救命	男	57		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/15	987653	右横隔膜下	入院	救急救命	男	85		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	I	R	S	S	S
2012/7/15	9076457	肝切離面	入院	救急救命	男	40		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	I	I	S	S	S
2012/7/15	5632479	左横隔膜下	入院	救急救命	男	30		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	I	I	S	S	S
2012/7/15	7386605	皮下膿瘍	入院	血液内科	男	38		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	I	I	S	S	S
2012/7/15	3312593	閉鎖膿	入院	整形外科	男	54		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/16	237647	カテーテル尿	入院	一般外科	男	89		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/16	8753212	血液	入院	血液内科	男	75		<i>Paeruginosa</i>	+	R	R	R	R	R	R
2012/7/16	3312593	閉鎖膿	入院	整形外科	男	54		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/16	3312593	閉鎖膿	入院	整形外科	男	54		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/17	7419163	耳分泌液	外来	救急救命	男	31		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/17	1813455	創部	入院	救急救命	女	68		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/17	6624324	膈分泌液	入院	救急救命	女	29		<i>Paeruginosa</i>	1+	S	R	R	S	S	S
2012/7/17	7406291	喀痰	入院	脳神経内科	女	82		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/17	7221461	気管内チューブ	入院	皮膚科	男	67		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/18	3802515	カテーテル尿	入院	血液内科	男	16		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	I	S	S
2012/7/19	4084811	中間尿	入院	救急救命	女	68		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/19	3802515	喀痰	入院	血液内科	男	16		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	I	S	S
2012/7/20	7027567	カテーテル尿	入院	救急救命	女	65		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/20	7337884	カテーテル尿	入院	血液内科	男	80		<i>Paeruginosa</i>	1+	R	R	R	R	R	R
2012/7/21	1267890	開放膿	入院	救急救命	男	38		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/21	6745231	吸引痰	入院	救急救命	男	6		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/21	4256166	喀痰	入院	救急救命	男	86		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/21	7386605	開放膿	入院	血液内科	男	38		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/21	7363885	創部膿	入院	泌尿器科	男	63		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S
2012/7/21	7363885	バルーン尿	入院	泌尿器科	男	63		<i>Paeruginosa</i>	3+	S	S	S	S	S	S

表3. 臨床分離菌情報：バンコマイシン耐性腸球菌

受付年月日	患者ID	材料	入院・外来	診療科	性別	年齢(年)	菌(一般細菌)	菌量	ABPC	IPM	VCM	LVFX	LZD
2012/7/1	81981	喀痰	入院	呼吸器内科	男	70	<i>E.coli</i>	3+	S			R	
2012/7/1	7053207	鼻腔粘液	入院	小児科	女	2	<i>S.pneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/1	7154941	鼻咽腔	入院	小児科	男	1	<i>S.pneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/1	7407050	皮膚膿	入院	小児科	男	0	<i>S.haemolyticus</i>	1+	R	R	S		
2012/7/1	7154941	中間尿	入院	泌尿器科	男	65	<i>S.aureus (MRSA)</i>	1+	R	R	S		
2012/7/1	6738087	胆汁	入院	消化器外科	男	63	<i>C.perfringens</i>	2+	S	S			
2012/7/1	7398620	血液	入院	脳外科	男	36	<i>S.hominis</i>	+	R	R	S		

受付年月日	患者ID	材料	入院・外来	診療科	性別	年齢(年)	菌(一般細菌)	菌量	ABPC	IPM	VCM	LVFX	LZD
2012/7/1	5963150	血液	入院	消化器外科	男	78	<i>E.coli</i>	+	S			S	
2012/7/1	7336586	気管内チューブ	入院	小児科	男	1	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	S	S	S		
2012/7/1	7386605	開放膿	入院	救急救命	男	38	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/1	7386605	開放膿	入院	救急救命	男	38	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/1	7386605	開放膿	入院	救急救命	男	38	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/1	7386605	開放膿	入院	救急救命	男	38	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/1	7026277	咽頭粘液	外来	耳鼻咽喉科	女	25	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	R	S	S		
2012/7/1	3494853	創部ドレーン	入院	消化器外科	男	53	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	R	S	S		
2012/7/2	7410492	陰分泌液	入院	産婦人科	女	39	<i>Sagalactiae</i>	1+	S		S		
2012/7/2	7041527	喀痰	入院	心臓血管外科	男	62	<i>H.influenzae</i>	1+	I	S			
2012/7/2	5418445	喀痰	入院	脳神経内科	女	72	<i>H.influenzae</i>	1+	S	S			
2012/7/2	1335618	腹水	入院	血液内科	男	55	<i>E.faecium</i>	3+	R	R	R	S	S
2012/7/2	6849016	鼻咽腔	入院	小児科	男	4	<i>H.influenzae</i>	1+	R	S			
2012/7/2	7381719	鼻咽腔	入院	小児科	男	0	<i>Shaemolyticus</i>	1+	R	R	S		
2012/7/2	7400268	鼻咽腔	入院	小児科	女	0	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/2	6849016	鼻咽腔	入院	小児科	男	4	<i>Spneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/2	5920167	中間尿	入院	循環器内科	男	75	<i>S.marcescens</i>	3+	I			S	
2012/7/2	839477	中間尿	入院	消化器外科	男	76	<i>E.gallinarum</i>	1+	S	S	R	S	S
2012/7/2	6265251	血液	入院	心臓血管外科	男	64	<i>Corynebacterium</i> sp.	+	R		S		S
2012/7/2	6265251	血液	入院	心臓血管外科	男	64	<i>Corynebacterium</i> sp.	+	R		S		S
2012/7/2	7212178	血液	入院	産婦人科	女	38	<i>E.faecalis</i>	+	S	S	S	S	S
2012/7/2	7212178	血液	入院	産婦人科	女	38	<i>E.faecalis</i>	+	S	S	S	S	S
2012/7/2	1335618	血液	入院	血液内科	男	55	<i>E.faecium</i>	+	R	R	R	I	S
2012/7/2	1335618	血液	入院	血液内科	男	55	<i>E.faecium</i>	+	R	R	R	S	S
2012/7/2	5605105	胸水	外来	呼吸器内科	男	75	<i>Spneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/2	5605105	胸水	外来	呼吸器内科	男	75	<i>Spneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/2	7366884	気管内チューブ	入院	小児科	男	0	<i>H.influenzae</i>	1+	I	S			
2012/7/2	7371454	気管内チューブ	入院	小児科	男	0	<i>K.oxytoca</i>	3+	R			S	
2012/7/2	7381727	気管内チューブ	入院	小児科	女	0	<i>K.oxytoca</i>	3+	R			S	
2012/7/2	7410115	開放膿	外来	形成外科	男	47	G群 streptococcus	1+	S		S		
2012/7/2	7400268	咽頭粘液	入院	小児科	女	0	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/2	7390416	腹部ドレーン	入院	消化器外科	男	65	<i>E.cloacae</i>	3+	R			S	
2012/7/2	7390416	腹部ドレーン	入院	消化器外科	男	65	<i>E.gallinarum</i>	1+	S	S	R	S	S
2012/7/2	4189710	創部ドレーン	入院	消化器外科	男	38	<i>Corynebacterium</i> sp.	1+	R		S		S
2012/7/2	5418445	カテーテル尿	入院	脳神経内科	女	72	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/2	7406789	カテーテル尿	入院	脳神経内科	女	21	<i>E.coli</i>	3+	R			I	
2012/7/2	5418445	カテーテル尿	入院	脳神経内科	女	72	<i>Sagalactiae</i>	1+	S		S		
2012/7/2	7336381	カテーテル尿	外来	泌尿器科	男	60	<i>Paeruginosa</i>	3+				R	
2012/7/2	7390416	ウインスロー	入院	消化器外科	男	65	<i>E.cloacae</i>	3+	R			S	
2012/7/2	7390416	ウインスロー	入院	消化器外科	男	65	<i>E.gallinarum</i>	1+	S	S	R	S	S
2012/7/2	7390416	ウインスロー	入院	消化器外科	男	65	<i>E.gallinarum</i>	1+	S	S	R	S	S
2012/7/2	6265251	I VHカテ	入院	心臓血管外科	男	64	<i>Corynebacterium</i> sp.	1+	R		S		S
2012/7/3	7389981	膈空腸吻合部	入院	消化器外科	男	72	<i>E.cloacae</i>	3+	R			S	
2012/7/3	450227	喀痰	入院	整形外科	男	75	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/3	450227	喀痰	入院	整形外科	男	75	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/3	3959970	喀痰	入院	消化器内科	男	82	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/3	7400268	中間尿	入院	小児科	女	0	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/3	7386435	中間尿	入院	血液内科	男	61	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	R	S	S		
2012/7/3	2305593	中間尿	入院	脳神経内科	女	83	<i>E.coli</i>	3+	R			S	
2012/7/3	6594310	血液	入院	血液内科	女	64	<i>E.faecium</i>	+	R	R	R	S	S
2012/7/3	6594310	血液	入院	血液内科	女	64	<i>E.faecium</i>	+	R	R	R	S	S
2012/7/3	5605105	胸水	外来	呼吸器内科	男	75	<i>Spneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/3	7371454	気管内チューブ	入院	小児科	男	0	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/3	6594310	咽頭粘液	入院	血液内科	女	64	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/3	5916640	創部ドレーン	入院	一般外科	男	73	<i>B.fragilis</i>	2+	R	S			

受付年月日	患者ID	材料	入院・外来	診療科	性別	年齢(年)	菌(一般細菌)	菌量	ABPC	IPM	VCM	LVFX	LZD
2012/7/3	2522781	カテーテル尿	入院	血液内科	男	72	<i>E.faecium</i>	1+	R	R	R	S	S
2012/7/3	6929389	カテーテル尿	外来	泌尿器科	女	65	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/3	4503465	カテーテル尿	入院	脳外科	女	58	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/3	7074425	カテーテル尿	入院	血液内科	女	56	<i>E.faecium</i>	1+	R	R	R	S	S
2012/7/4	5675481	喀痰	入院	呼吸器内科	男	77	<i>E.cloacae</i>	3+	R			S	
2012/7/4	7093373	鼻腔粘液	入院	小児科	男	2	<i>H.influenzae</i>	1+	I	S			
2012/7/4	7093373	鼻腔粘液	入院	小児科	男	2	<i>S.pneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/4	6686109	鼻咽腔	入院	小児科	男	3	<i>H.influenzae</i>	1+	S	S			
2012/7/4	7343060	鼻咽腔	入院	小児科	男	0	<i>S.galactiae</i>	1+	S		S		
2012/7/4	7142617	鼻咽腔	入院	小児科	女	1	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/4	7343060	鼻咽腔	入院	小児科	男	0	<i>E.aerogenes</i>	3+	R			S	
2012/7/4	4339975	中間尿	入院	皮膚科	男	64	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	S	S	S		
2012/7/4	7315929	中間尿	入院	脳外科	男	62	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/4	7376057	中間尿	入院	心臓血内科	女	66	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/4	7376057	中間尿	入院	心臓血内科	女	66	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/4	3548988	中間尿	入院	血液内科	女	69	<i>E.casseliflavus</i>	1+	S	S	R	S	S
2012/7/4	1999052	組織	入院	皮膚科	女	75	<i>B.fragilis</i>	2+	R	S			
2012/7/4	1999052	組織	入院	皮膚科	女	75	<i>E.faecalis</i>	2+	S	S	S	S	S
2012/7/4	1999052	組織	入院	皮膚科	女	75	<i>M.morganii</i>	3+	R			S	
2012/7/4	3087131	血液	入院	心臓血内科	女	42	<i>Corynebacterium</i> sp.	+	R		S		S
2012/7/4	7234546	眼脂	外来	小児科	男	1	<i>H.influenzae</i>	1+	S	S			
2012/7/4	7390416	膿(ガーゼ)	入院	消化器外科	男	65	<i>E.cloacae</i>	3+	R			S	
2012/7/4	7390416	膿(ガーゼ)	入院	消化器外科	男	65	<i>E.gallinarum</i>	1+	S	S	R	S	S
2012/7/4	2522781	膿	入院	血液内科	男	72	<i>E.faecium</i>	1+	R	R	R	S	S
2012/7/4	3802515	気管内チューブ	入院	救急救命	男	16	<i>H.influenzae</i>	2+	I	S			
2012/7/4	3802515	気管内チューブ	入院	救急救命	男	16	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/4	7375930	カテーテル尿	入院	脳外科	男	58	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/4	7398620	カテーテル尿	入院	脳外科	男	36	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/4	7169647	カテーテル尿	入院	消化器外科	女	73	<i>E.cloacae</i>	3+	R			S	
2012/7/4	7073801	カテーテル尿	外来	泌尿器科	男	25	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/5	6308791	褥瘡	外来	皮膚科	男	71	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	R	S	S		
2012/7/5	1335618	膜空腸吻合部	入院	消化器外科	男	85	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	R	S	S		
2012/7/5	1378741	喀痰	外来	呼吸器内科	男	65	<i>B.catarrhalis</i>	2+	R				
2012/7/5	1378741	喀痰	外来	呼吸器内科	男	65	<i>S.pneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/5	7376057	喀痰	入院	救急救命	女	66	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/5	4339975	閉鎖膿	入院	皮膚科	男	64	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	S	S	S		
2012/7/5	4339975	閉鎖膿	入院	皮膚科	男	64	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	S	S	S		
2012/7/5	7373775	鼻咽腔	外来	小児科	男	1	<i>H.influenzae</i>	1+	R	S			
2012/7/5	7027567	中間尿	入院	産婦人科	女	64	<i>E.faecium</i>	1+	R	R	S	S	S
2012/7/5	7027567	中間尿	入院	産婦人科	女	64	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	S	S	S		
2012/7/5	625761	中間尿	入院	救急救命	男	83	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/5	1866362	気管内チューブ	入院	一般外科	男	55	<i>E.cloacae</i>	3+	R			S	
2012/7/5	418455	眼脂	外来	眼科	男	83	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/5	7390416	肝床部	入院	消化器外科	男	65	<i>E.gallinarum</i>	1+	S	S	R	S	S
2012/7/5	1335618	糞便	入院	血液内科	男	55	<i>E.faecium</i>	2+	R	R	R	S	S
2012/7/5	5971101	糞便	入院	血液内科	男	27	<i>E.faecium</i>	+	R	R	R	S	S
2012/7/5	2188830	腹部ドレーン	外来	血液内科	女	26	<i>E.coli</i>	1+					
2012/7/5	7390416	腹部ドレーン	入院	消化器外科	男	65	<i>E.gallinarum</i>	2+	S	S	R	S	S
2012/7/5	5297141	カテーテル尿	入院	循環器内科	男	77	<i>S.epidermidis</i>	1+	R	R	S		
2012/7/5	1335618	I VHカテ	入院	血液内科	男	55	<i>E.faecium</i>	2+	R	R	R	S	S
2012/7/5	7397496	I VHカテ	入院	一般外科	女	61	<i>S.epidermidis</i>	1+	R	R	S		
2012/7/6	2168723	喀痰	入院	脳外科	女	76	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/6	2168723	喀痰	入院	脳外科	女	76	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/6	7409036	糞便	入院	循環器内科	女	55	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/6	5740215	膿	入院	消化器外科	女	77	<i>S.anginosus</i>	1+	S		S		

受付年月日	患者ID	材料	入院・外来	診療科	性別	年齢(年)	菌(一般細菌)	菌量	ABPC	IPM	VCM	LVFX	LZD
2012/7/6	1099396	中間尿	外来	泌尿器科	女	59	<i>C.freundii</i>	3+	R			S	
2012/7/6	537250	中間尿	入院	代謝内分泌内科	男	51	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/6	2671760	胆汁	入院	消化器内科	男	76	<i>E.faecium</i>	3+	R	R	S	S	S
2012/7/6	7336705	創部	入院	救急救命	男	42	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/6	3643620	血液	入院	消化器外科	女	74	<i>C.perfringens</i>	+	S	S			
2012/7/6	7374283	パウチ尿	外来	小児科	男	0	<i>E.coli</i>	3+	R			S	
2012/7/6	7374283	パウチ尿	外来	小児科	男	0	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/6	2168723	カテーテル尿	入院	脳外科	女	76	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/6	450227	カテーテル尿	入院	整形外科	男	75	<i>M.morganii</i>	3+	R			S	
2012/7/7	7191782	鼻咽腔	入院	小児科	男	1	<i>H.influenzae</i>	1+	R	S			
2012/7/7	7403763	中間尿	外来	泌尿器科	男	33	<i>Paeruginosa</i>	3+				R	
2012/7/7	7403763	血液	外来	泌尿器科	男	33	<i>S.epidermidis</i>	+	R	R	S		
2012/7/7	7408471	関節液	入院	整形外科	男	0	<i>S.agalactiae</i>	1+	S		S		
2012/7/8	6973779	喀痰	外来	消化器外科	男	62	<i>H.influenzae</i>	2+	S	S			
2012/7/8	5678123	喀痰	入院	救急救命	女	93	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/8	6984797	喀痰	入院	救急救命	男	87	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/8	7413726	鼻咽腔	入院	小児科	女	1	<i>B.catarrhalis</i>	1+	R				
2012/7/8	6278451	鼻咽腔	入院	小児科	男	5	<i>H.influenzae</i>	1+	I	S			
2012/7/8	7053207	鼻咽腔	入院	小児科	女	2	<i>H.influenzae</i>	1+	R	S			
2012/7/8	7381727	鼻咽腔	入院	小児科	女	0	<i>K.oxytoca</i>	3+	R			S	
2012/7/8	1743856	中間尿	入院	産婦人科	女	69	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/8	1746502	胆汁	入院	消化器内科	男	60	<i>K.pneumoniae</i>	3+	I			S	
2012/7/8	1746502	血液	入院	消化器内科	男	60	<i>K.pneumoniae</i>	+	S			S	
2012/7/8	1746502	血液	入院	消化器内科	男	60	<i>K.pneumoniae</i>	+	S			S	
2012/7/8	3917681	血液	入院	産婦人科	女	61	<i>S.epidermidis</i>	+	R	S	S		
2012/7/8	3917681	血液	入院	産婦人科	女	61	<i>S.epidermidis</i>	+	R	S	S		
2012/7/8	7381727	気管内チューブ	入院	小児科	女	0	<i>K.oxytoca</i>	3+	I			S	
2012/7/8	6627854	開放膿	入院	救急救命	男	70	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/8	537250	I V Hカテ	入院	代謝内分泌内科	男	51	<i>Corynebacterium sp.</i>	1+	R		S		S
2012/7/9	7395159	喀痰	入院	脳外科	女	76	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/9	3959970	喀痰	入院	消化器内科	男	82	<i>S.aureus (MRSA)</i>	1+	R	R	S		
2012/7/9	1590839	喀痰	外来	循環器内科	女	80	<i>S.aureus (MSSA)</i>	1+	S	S	S		
2012/7/9	3802515	喀痰	入院	救急救命	男	16	<i>S.aureus (MRSA)</i>	+	R	R	S		
2012/7/9	7284390	中間尿	入院	小児科	男	0	<i>E.faecalis</i>	3+	S	S	S	S	S
2012/7/9	4541031	創部	入院	一般外科	男	42	<i>S.epidermidis</i>	1+	R	R	S		
2012/7/9	5179599	浸出液	入院	呼吸器外科	女	70	<i>S.epidermidis</i>	1+	R	R	S		
2012/7/9	3547426	血液	入院	消化器内科	男	39	<i>K.pneumoniae</i>	+	R			S	
2012/7/9	3547426	血液	入院	消化器内科	男	39	<i>S.aureus (MSSA)</i>	+	S	S	S		
2012/7/9	7142617	血液	入院	小児科	女	1	<i>S.aureus (MRSA)</i>	1+	R	R	S		
2012/7/9	5179599	胸水	入院	呼吸器外科	女	70	<i>S.epidermidis</i>	1+	R	R	S		
2012/7/9	7284390	気管内内チューブ	入院	小児科	男	0	<i>E.faecalis</i>	3+	S	S	S	S	S
2012/7/9	1942344	開放膿	外来	産婦人科	女	49	<i>S.aureus (MSSA)</i>	1+	R	S	S		
2012/7/9	7284390	咽頭粘液	入院	小児科	男	0	<i>E.aerogenes</i>	3+	S			S	
2012/7/9	5328331	腹部ドレーン	入院	消化器外科	女	69	<i>S.aureus (MSSA)</i>	1+	S	S	S		
2012/7/9	6265251	創部分泌液	入院	心臓血管外科	男	64	<i>Corynebacterium sp.</i>	1+	R		S		S
2012/7/9	4541031	創部ドレーン	入院	一般外科	男	42	<i>H.influenzae</i>	1+	R	S			
2012/7/9	7371454	気管内チューブ	入院	小児科	男	0	<i>K.oxytoca</i>	3+	R			S	
2012/7/9	7395159	カテーテル尿	入院	脳外科	女	76	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/9	3547426	カテーテル尿	入院	消化器内科	男	39	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/9	3547426	カテーテル尿	入院	消化器内科	男	39	<i>M.morganii</i>	3+	R			S	
2012/7/9	3547426	カテーテル尿	入院	消化器内科	男	39	<i>S.aureus (MSSA)</i>	1+	S	S	S		
2012/7/9	4862350	カテーテル尿	外来	小児科	男	11	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/10	7243057	喀痰	入院	消化器内科	男	68	<i>Paeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/10	7414838	鼻咽腔	入院	小児科	女	0	<i>H.influenzae</i>	1+	R	S			
2012/7/10	7414838	鼻咽腔	入院	小児科	女	0	<i>S.pneumoniae</i>	1+	S		S		

受付年月日	患者ID	材料	入院・外来	診療科	性別	年齢(年)	菌(一般細菌)	菌量	ABPC	IPM	VCM	LVFX	LZD
2012/7/10	2223350	中間尿	入院	血液内科	女	59	<i>E.casseliflavus</i>	1+	S	S	R	S	S
2012/7/10	7013159	腎盂尿	入院	泌尿器科	女	52	<i>E.faecalis</i>	1+	S	S	S	S	S
2012/7/10	7013159	腎盂尿	入院	泌尿器科	女	52	<i>P.vulgaris</i>	3+	R			S	
2012/7/10	3513386	耳分泌液	外来	耳鼻咽喉科	女	62	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	R	S	S		
2012/7/10	6594310	血液	入院	血液内科	女	64	<i>E.faecium</i>	+	R	R	R	S	S
2012/7/10	1238902	開放膿	入院	救急救命	男	70	<i>P.aeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/10	2357890	開放膿	入院	救急救命	男	70	<i>P.aeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/10	6627854	開放膿	入院	一般外科	男	70	<i>S.marcescens</i>	3+	R			S	
2012/7/10	7089279	咽頭粘液	入院	心臓血内科	男	61	<i>K.oxytoca</i>	3+	R			S	
2012/7/10	4856783	咽頭粘液	外来	小児科	女	15	<i>H.influenzae</i>	1+	I	S			
2012/7/10	6594310	咽頭粘液	入院	血液内科	女	64	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/10	7394616	咽頭粘液	入院	血液内科	男	67	<i>S.epidermidis</i>	1+	R	R	S		
2012/7/10	5142857	糞便	入院	血液内科	女	49	<i>E.faecium</i>	1+	R	R	R	S	S
2012/7/10	7374852	ウインスロー	入院	消化器外科	女	82	<i>A.hydrophila</i>	3+				S	
2012/7/10	1335618	ウインスロー	入院	消化器外科	男	85	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	R	S	S		
2012/7/10	3917681	I VHカテ	入院	産婦人科	女	61	<i>S.epidermidis</i>	1+	R	S	S		
2012/7/10	6594310	I VHカテ	入院	血液内科	女	64	<i>E.faecium</i>	1+	R	R	R	S	S
2012/7/11	5548551	扁桃陰窩	入院	耳鼻咽喉科	男	39	G群 streptococcus	1+	S		S		
2012/7/11	5388503	喀痰	入院	耳鼻咽喉科	男	69	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/11	625761	喀痰	入院	救急救命	男	84	<i>P.aeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/11	7414854	喀痰	入院	救急救命	男	43	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	R	S	S		
2012/7/11	34215	腹水	入院	一般外科	男	75	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	R	S	S		
2012/7/11	7269064	鼻咽腔	入院	小児科	男	0	<i>B.cattarrhalis</i>	1+	R				
2012/7/11	7220952	鼻咽腔	外来	小児科	男	6	<i>S.pneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/11	7269064	鼻咽腔	入院	小児科	男	0	<i>S.pneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/11	7416067	鼻咽腔	外来	小児科	女	2	<i>S.pneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/11	7060807	鼻咽腔	入院	耳鼻咽喉科	男	63	<i>S.epidermidis</i>	1+	R	R	S		
2012/7/11	625761	中間尿	入院	心臓血内科	男	84	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/11	4121716	胆汁	外来	消化器内科	女	80	<i>E.faecalis</i>	3+	S	S	S	S	S
2012/7/11	5300819	穿刺液	入院	整形外科	女	63	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/11	5300819	穿刺液	入院	整形外科	女	63	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/11	3981754	血液	入院	心臓血内科	女	82	<i>S.schleiferi</i>	+	R	S	S		
2012/7/11	4020324	吸引痰	入院	脳外科	男	49	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/11	6142800	開放膿	入院	泌尿器科	男	81	<i>P.aeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/11	1353969	咽頭粘液	入院	循環器内科	男	71	<i>P.aeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/11	1335618	糞便	入院	血液内科	男	55	<i>E.faecium</i>	2+	R	R	R	S	S
2012/7/11	2522781	糞便	入院	血液内科	男	72	<i>E.faecium</i>	1+	R	R	R	S	S
2012/7/11	4548434	糞便	入院	血液内科	女	31	<i>E.faecium</i>	3+	R	R	R	S	S
2012/7/11	6594310	糞便	入院	血液内科	女	64	<i>E.faecium</i>	+	R	R	R	S	S
2012/7/11	7335661	腹部ドレーン	外来	消化器外科	男	70	<i>B.fragilis</i>	2+	R	S			
2012/7/11	7335661	腹部ドレーン	入院	消化器外科	男	70	<i>E.faecalis</i>	1+	S	S	S	S	S
2012/7/11	7335661	腹部ドレーン	外来	消化器外科	男	70	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/11	6644112	バルンカテ先	入院	心臓血内科	女	65	<i>E.coli</i>	3+	S			R	
2012/7/11	6462103	血管内カテ	入院	小児科	男	8	<i>Bacillus</i> sp.	1+	S		S		
2012/7/11	2935970	カテーテル尿	外来	皮膚科	男	64	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/11	6644112	カテーテル尿	入院	心臓血内科	女	65	<i>E.coli</i>	3+	S			R	
2012/7/11	2922096	カテーテル尿	入院	産婦人科	女	61	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/11	3087212	カテーテル尿	入院	脳神経内科	男	34	<i>C.koseri</i>	3+	R	S		S	
2012/7/11	3087212	カテーテル尿	入院	脳神経内科	男	34	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/11	3087212	カテーテル尿	入院	脳神経内科	男	34	<i>E.faecalis</i>	3+	S	S	S	S	S
2012/7/11	7296011	カテーテル尿	外来	泌尿器科	女	67	<i>C.freundii</i>	3+	S			S	
2012/7/12	3718085	喀痰	入院	脳神経内科	女	81	<i>Sagalactiae</i>	1+	S		S		
2012/7/12	5300819	閉鎖膿	入院	整形外科	女	63	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/12	2002825	鼻咽腔	入院	心臓血管外科	女	79	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	S	S	S		
2012/7/12	7153228	鼻咽腔	入院	小児科	男	1	<i>H.influenzae</i>	1+	I	S			

受付年月日	患者ID	材料	入院・外来	診療科	性別	年齢(年)	菌(一般細菌)	菌量	ABPC	IPM	VCM	LVFX	LZD
2012/7/12	7153228	鼻咽腔	入院	小児科	男	1	<i>S.pneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/12	6893791	鼻咽腔	外来	耳鼻咽喉科	男	2	<i>B.catarrhalis</i>	1+	R				
2012/7/12	6893791	鼻咽腔	外来	耳鼻咽喉科	男	2	<i>H.influenzae</i>	1+	S	S			
2012/7/12	6893791	鼻咽腔	外来	耳鼻咽喉科	男	2	<i>S.pneumoniae</i>	1+	S		S		
2012/7/12	464473	中間尿	入院	脳神経内科	男	71	<i>S.marcescens</i>	3+	R			S	
2012/7/12	6460631	中間尿	外来	呼吸器内科	男	25	<i>C.koseri</i>	3+	R			R	
2012/7/12	6460631	中間尿	外来	呼吸器内科	男	25	<i>E.faecalis</i>	3+	S	S	S	S	S
2012/7/12	7297777	早朝尿	入院	血液内科	男	71	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/12	4907221	浸出液	入院	泌尿器科	男	71	<i>B.fragilis</i>	2+	R	S			
2012/7/12	4907221	浸出液	入院	泌尿器科	男	71	<i>E.faecalis</i>	3+	S	S	S	S	S
2012/7/12	6893791	耳漏	外来	耳鼻咽喉科	男	2	<i>H.influenzae</i>	1+	S	S			
2012/7/12	5712203	血液	入院	心臓血内科	男	64	<i>S.epidermidis</i>	+	R	R	S		
2012/7/12	5712203	血液	入院	心臓血内科	男	64	<i>S.epidermidis</i>	+	R	R	S		
2012/7/12	1745832	血液	入院	消化器内科	男	60	<i>E.cloacae</i>	+	R			S	
2012/7/12	1745832	血液	入院	消化器内科	男	60	<i>E.cloacae</i>	+	R			S	
2012/7/12	3718085	血液	入院	血液内科	女	81	<i>E.faecium</i>	+	R	R	R	S	S
2012/7/12	50610	血液	入院	脳神経内科	男	81	<i>S.epidermidis</i>	+	R	R	S		
2012/7/12	50610	血液	入院	脳神経内科	男	81	<i>S.epidermidis</i>	+	R	R	S		
2012/7/12	3718085	血液	入院	脳神経内科	女	81	<i>S.intermedius</i>	+	R	R	S		
2012/7/12	7343183	気管内チューブ	入院	救急救命	男	57	<i>Pa.aeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/12	3718085	糞便	入院	血液内科	女	81	<i>E.faecium</i>	3+	R	R	R	S	S
2012/7/12	4517938	糞便	入院	血液内科	女	37	<i>E.faecium</i>	3+	R	R	R	S	S
2012/7/12	5971101	糞便	入院	血液内科	男	27	<i>E.faecium</i>	+	R	R	R	S	S
2012/7/12	5328331	腹部ドレイン	入院	消化器外科	女	69	<i>B.fragilis</i>	2+	R	S			
2012/7/12	5328331	腹部ドレイン	入院	消化器外科	女	69	<i>E.coli</i>	3+	R			R	
2012/7/12	5328331	腹部ドレイン	入院	消化器外科	女	69	<i>Sagalactiae</i>	1+	S		S		
2012/7/12	610224	創部ドレイン	入院	一般外科	女	78	<i>S.epidermidis</i>	1+	R	R	S		
2012/7/12	3718085	カテーテル尿	入院	血液内科	女	81	<i>E.faecium</i>	3+	R	R	R	S	S
2012/7/12	3950085	カテーテル尿	外来	泌尿器科	女	40	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/12	3950085	カテーテル尿	外来	泌尿器科	女	40	<i>Sagalactiae</i>	1+	S		S		
2012/7/12	5615470	カテーテル尿	外来	小児科	女	7	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/12	7374852	ウインスロー	入院	消化器外科	女	82	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/13	5628865	喀痰	入院	皮膚科	男	63	<i>Sagalactiae</i>	1+	S		S		
2012/7/13	7401329	喀痰	入院	消化器内科	女	82	<i>Pa.aeruginosa</i>	3+				S	
2012/7/13	5675481	喀痰	入院	呼吸器内科	男	77	<i>E.cloacae</i>	3+	R			S	
2012/7/13	2363496	喀痰	外来	呼吸器内科	男	31	<i>H.influenzae</i>	1+	S	S			
2012/7/13	7414382	喀痰	外来	呼吸器内科	男	69	<i>H.influenzae</i>	1+	S	S			
2012/7/13	7373741	喀痰	外来	呼吸器内科	女	20	<i>P.fluorescens</i>	3+				S	
2012/7/13	3320782	喀痰	入院	呼吸器内科	男	88	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/13	7384289	喀痰	入院	呼吸器内科	男	75	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/13	3802515	喀痰	入院	救急救命	男	16	<i>S.aureus</i> (MRSA)	1+	R	R	S		
2012/7/13	7388349	鼻咽腔	入院	小児科	女	0	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	S	S	S		
2012/7/13	7262451	鼻咽腔	外来	耳鼻咽喉科	女	0	<i>B.catarrhalis</i>	1+	R				
2012/7/13	374661	中間尿	入院	脳外科	女	45	<i>E.faecalis</i>	3+	S	S	S	S	S
2012/7/13	6214363	胆汁	入院	消化器外科	男	73	<i>B.fragilis</i>	2+	R	S			
2012/7/13	6214363	胆汁	入院	消化器外科	男	73	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/13	117196	耳漏	外来	耳鼻咽喉科	男	59	<i>K.pneumoniae</i>	3+	R			S	
2012/7/13	7386605	吸引痰	入院	救急救命	男	38	<i>Pa.aeruginosa</i>	3+				R	
2012/7/13	7388349	気管内チューブ	入院	小児科	女	0	<i>K.oxytoca</i>	3+	R			S	
2012/7/13	2935970	開放膿	外来	皮膚科	男	64	<i>S.aureus</i> (MSSA)	1+	R	S	S		
2012/7/13	7266286	バルンカテ先	入院	皮膚科	女	73	<i>E.coli</i>	3+	S			S	
2012/7/13	7409061	ダグラス窩	外来	産婦人科	女	87	<i>B.fragilis</i>	2+	R	S			
2012/7/13	7409061	ダグラス窩	外来	産婦人科	女	87	<i>C.fruendii</i>	3+	R			S	
2012/7/13	7409061	ダグラス窩	外来	産婦人科	女	87	<i>Streptococcus</i> sp.	1+	S		S		
2012/7/13	969257	カテーテル尿	入院	心臓血内科	女	80	<i>E.coli</i>	3+	S			S	